

HAMAMATSU

PHOTON IS OUR BUSINESS

第67期 中間報告書

平成25年10月1日から平成26年3月31日まで

証券コード：6965

浜松ホトニクス株式会社



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに、第67期中間期（平成25年10月1日から平成26年3月31日）における中間報告書をお届けするにあたり、ご挨拶を申し上げます。

当社は、創業以来「光」を追究し、高い技術力を背景とした他社にない製品の開発を目指して、事業を推進してまいりました。

当中間期につきましても、引続き研究開発を推し進め、顧客ニーズに応えた新製品の開発に努めるとともに、積極的な設備投資を継続することにより、売上高、利益の確保に努力してまいりました。

この結果、当中間期における当社グループの業績及び通期の業績見通しは次のとおりであります。

連結財務ハイライト

売上高の推移



経常利益の推移



〈第67期中間期連結業績〉 (前年同期比)

連結売上高 : 56,680百万円 (12.3%増)

連結経常利益 : 11,422百万円 (25.8%増)

連結中間純利益 : 7,468百万円 (30.3%増)

〈第67期通期連結業績見通し〉 (前年同期比)

連結売上高 : 115,200百万円 (12.8%増)

連結経常利益 : 22,300百万円 (24.7%増)

連結当期純利益 : 15,100百万円 (31.0%増)

経済や市場のグローバル化が進む中、当社グループを取り巻く経営環境は決して楽観できないと認識しております。しかしながら、当社が追究している光には依然として未知の領域が多く、十分に解明されたとは言えません。言い換えれば今後当社がなすべき事項、すなわち成長する余地は無限に広がっているととも言えます。

当社グループといたしましては、この光の解明へのチャレンジのために積極的な研究開発投資を進め、創業当時から目指している他社が真似できない競争力の高いオンリーワン製品の開発を続けていくことで、売上高、利益の増加を目指してまいり所存でございます。

役職員一同、長期ビジョンに立ち、常に前進を目指してまいりますので、株主の皆様におかれましては、これまで以上のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年6月

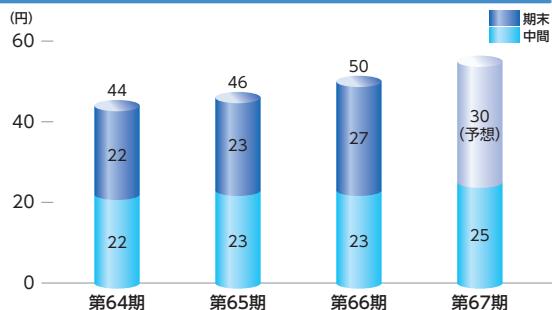
代表取締役社長

晝馬 明

当期純利益の推移



配当の推移

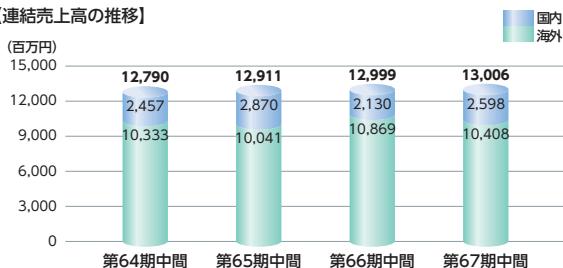


光電子増倍管

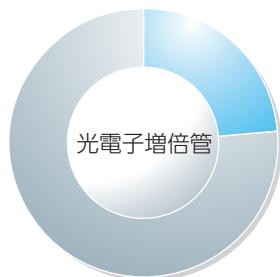
電子管事業

光電子増倍管は、PETなどの核医学検査装置向けの売上げが堅調に推移するとともに、海外における深海ニュートリノ実験等の学術分野向けの売上げが増加いたしました。さらに、バイオ分野で用いられるレーザスキャン顕微鏡向け等がその高感度を評価されて売上げを伸ばしました。しかしながら、放射線計測用等の売上げが減少いたしました結果、光電子増倍管の売上げは13,006百万円（0.1%増）と前年同期並みにとどまりました。

【連結売上高の推移】



▲深海ニュートリノ実験用光電子増倍管



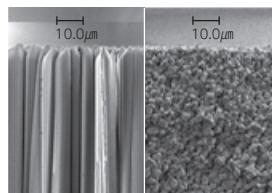
売上高比率 **23.0%**

イメージ機器及び光源

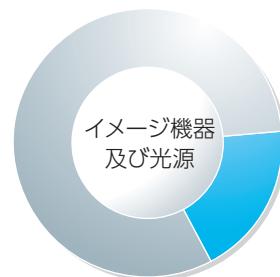
電子管事業

イメージ機器及び光源は、医用分野におきまして、X線画像を可視像に変換するX線シンチレータの売上げが米国を中心に引き続き増加いたしました。また、産業分野におきまして、半導体検査装置向けのキセノンランプ等の売上げが好調であったほか、X線非破壊検査用のマイクロフォーカスX線源が高精細な透過画像を得られる点が評価され、売上げを伸ばしました結果、イメージ機器及び光源の売上げは10,086百万円と前年同期に比べ16.0%の増加となりました。

【連結売上高の推移】



▲当社X線シンチレータの拡大図（左）。柱状結晶のため、粒状結晶（右）のものに比べて光が散乱しにくく、高解像度・高検出効率を実現できます。



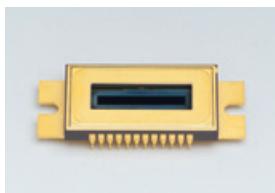
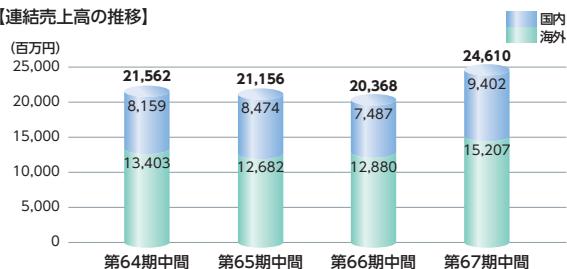
売上高比率 **17.8%**

光半導体素子

光半導体事業

光半導体素子は、医用分野におきまして、主力のシリコンフォトダイオードが、国内外の需要が回復し売上げが増加したほか、フラットパネルセンサが、高解像度や高分解能などを高く評価され、歯科用を中心に引続き好調に推移いたしました。さらに、産業分野におきましても、イメージセンサが半導体検査装置向けの需要が高まり売上げが増加いたしました結果、光半導体素子といたしましては、24,610百万円と前年同期に比べ20.8%の増加となりました。

【連結売上高の推移】



▲産業用CCDエリアイメージセンサ



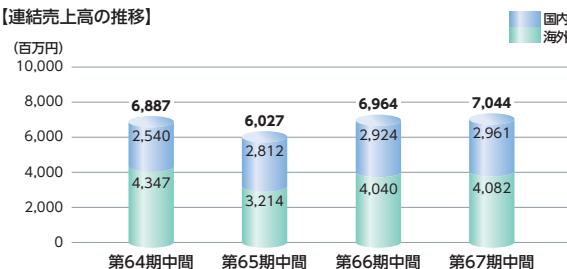
売上高比率 **43.4%**

画像処理・計測装置

画像計測機器事業

画像処理・計測装置は、デジタルカメラが、生命科学やバイオ分野において好調に推移するとともに、電子機器の基板検査等に用いられるX線TDIカメラがその高速応答性を評価され売上げを伸ばしました。また、病理デジタルスライドスキャナも新製品の投入により売上げが増加いたしました結果、画像処理・計測装置といたしましては、7,044百万円と前年同期に比べ1.1%の増加となりました。

【連結売上高の推移】



▲新製品の病理デジタルスライドスキャナ
[NanoZoomer-XR]



売上高比率 **12.4%**

当社グループでは、長年にわたり培ってきた独自の光技術を駆使し、バイオ、医療、情報、通信、エネルギー、物質、宇宙・天文、農業等の分野において、新しい知識、新しい産業の創成を目指した基礎研究を推し進めるとともに、新製品の開発及び既存製品の高機能化・高付加価値化を目指した開発を行っております。

以下に、当中間期におけるその成果の一部をご紹介します。

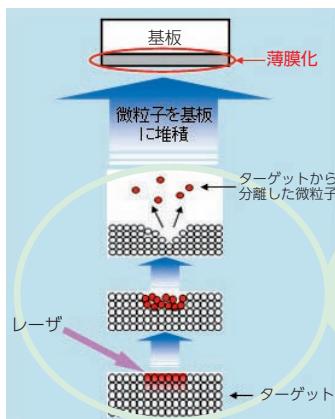
[基礎研究分野]

■ レーザアブレーション成膜技術の研究開発と製品化

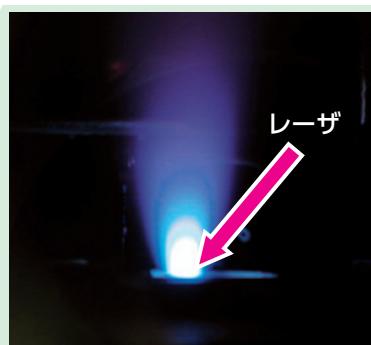
高密度・高強度のレーザー光を物質に照射すると、その表面から高いエネルギーをもった粒子が放出される現象をレーザーアブレーションと言います。この応用として、レーザーアブレーションにより放出された粒子を基板に堆積させることで薄膜を形成する技術があり、多元素からなる材料の成膜化を行う場合に非常に有効な方法とされています。

当社は、この成膜方法を用いて、従来の技術では困難であった紫外線発光材料の成膜化に成功し、水銀を含まず長寿命な特性をもつ紫外線光源を製品化いたしました。

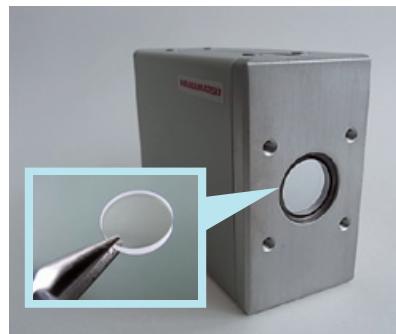
今後も、この技術を応用し他社にない高性能な発光素子の製品化を進めてまいります。



▲レーザーアブレーション成膜の原理



▲レーザーアブレーション成膜の様子



▲レーザーアブレーション成膜をした基板と製品化された紫外線光源

[開発分野]

低エネルギー電子線照射源「EBエンジン®」の新製品を発売

当社は、低エネルギーの電子線照射源「EBエンジン」の新製品を販売開始いたしました。

電子線は、紫外線に比べ高いエネルギーをもち、非接触で材料の極表面に直接化学反応を引き起こすことで、材料が本来もっていない新しい機能を付与することが可能です。この電子線を低エネルギーで照射することで、材料内部への影響を極力低減して、表面のみに影響を及ぼすことができます。しかしながら、低エネルギーの電子線は、電子線出射窓でのエネルギー損失が非常に大きいことから、大気中への効率的な照射は困難でした。

当社のEBエンジンは、電子線の出射窓に低エネルギー電子線の透過性が非常に高い特殊な金属箔を採用し、低エネルギー電子線の高効率な照射を可能にしています。さらに新製品では、照射幅を従来品の2倍に拡大するとともに十分な電子線照射量を確保することで、幅広い生産ラインでの使用を可能といたしました。

本製品は、医薬品・食品の容器や包装用フィルム等の滅菌処理、塗装前の樹脂の表面処理、電子線で硬化する環境に優れた専用インキを用いた印刷等、様々な分野での応用が期待されております。



▲EBエンジン

世界最小サイズのマイクロ分光器を新たに開発

当社は、現行のミニ分光器とほぼ同等の性能を維持しながら、体積と価格を2分の1以下にした世界最小サイズ（当社調べ）のマイクロ分光器を新たに開発いたしました。

分光分析とは、物質が放射するあるいは吸収する光の種類や性質を調べて、その物質の成分を検出する化学分析手法で、産業、医療、環境分析、食品などの様々な分野で用いられています。

分光分析器はこれまで大型で高価な据え置きタイプが主流でしたが、小型化に対するニーズを受けて、当社でもミニ分光器を開発販売してまいりました。そして現在では、持ち運び可能なタイプに加えて常に携帯可能なタイプへのニーズが高まりつつあります。

当社は、長年培ってきたMEMS技術^[1]と独自のイメージセンサ技術を融合させるとともに、設計を最適化することで、さらなる小型化・低価格化を実現いたしました。また、様々な用途での使用に耐えられるよう、金属製パッケージを採用し、堅牢性と高温環境に対する信頼性も確保いたしました。

今後は、印刷機器やLED照明の色管理はもとより、スマートフォン等の携帯端末に組み込むことでPOCT^[2]等の様々な新しい分光器用途に利用されることが期待されております。



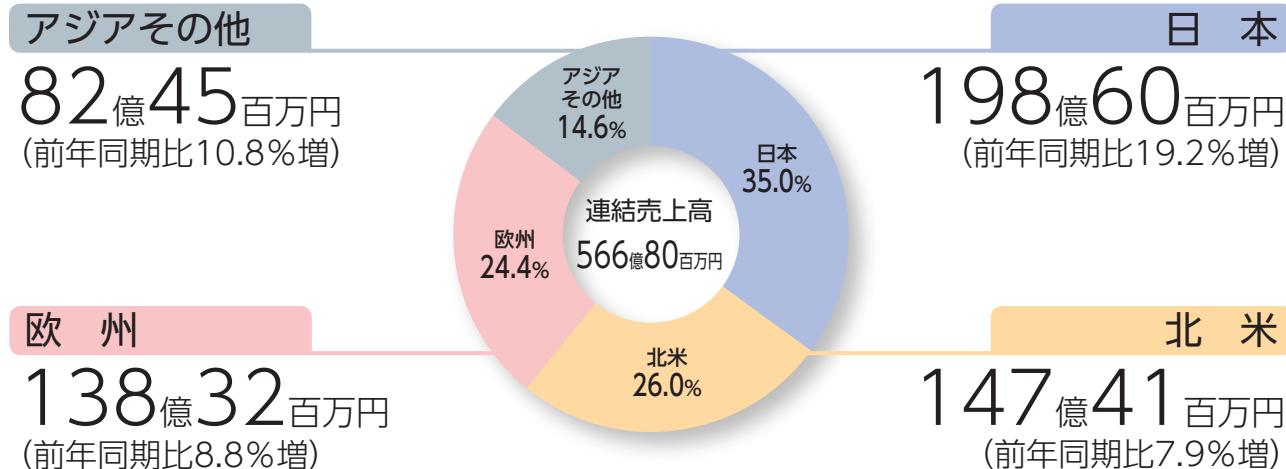
▲従来品（左）、マイクロ分光器（右）

[1] MEMS技術とは、半導体を三次元的に微細加工する最先端技術です。

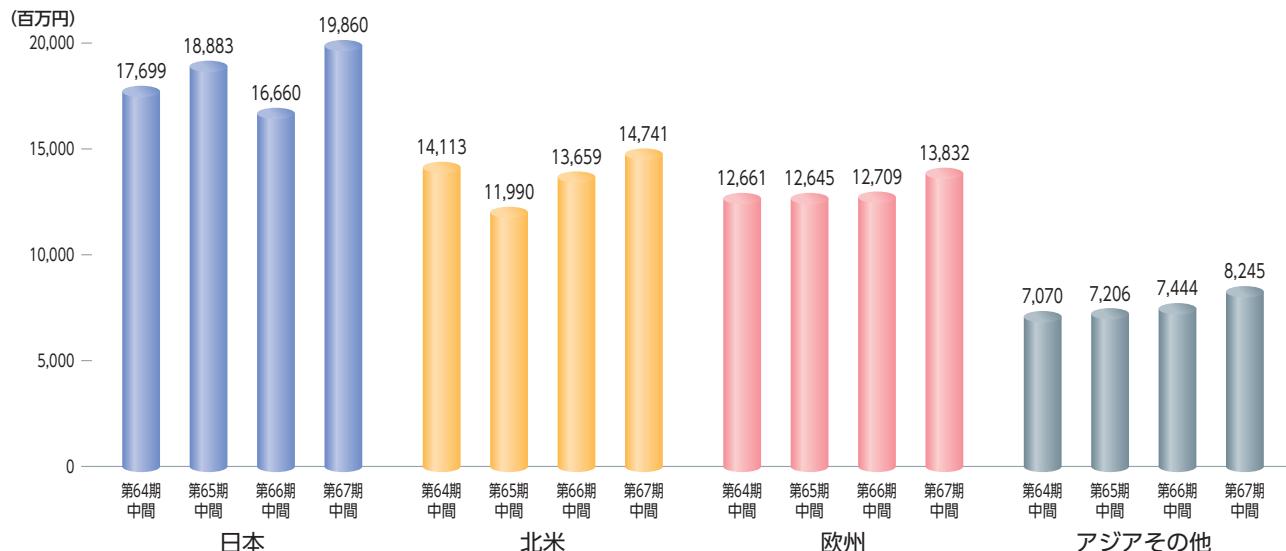
[2] POCT（ポイント・オブ・ケア・テストング）とは、小型分析機器や迅速診断キットを用いて患者の近くで診察中に簡単に測定でき、病院内の検査室で行う検査と同じ結果を得られる検査です。

地域別（顧客所在地別）

●売上高構成比（第67期中間期）



●売上高推移



■ ネットワーク



国内拠点

本社事務所	静岡県浜松市
工場	本社工場／新貝工場／天王製作所／常光製作所／ 都田製作所（いずれも浜松市）／ 豊岡製作所／ <small>みづろ</small> 三家工場（いずれも磐田市）
支店・営業所	東京支店・東京営業所／仙台営業所／筑波営業所／ 中部営業所（浜松市）／大阪営業所／西日本営業所（福岡市）
研究所	中央研究所／産業開発研究所（いずれも浜松市）／筑波研究所

連結子会社（国内）

株式会社光素
高丘電子株式会社
浜松電子プレス株式会社
株式会社磐田グランドホテル

連結子会社（海外）

北米

ハママツ・コーポレーション
ホトニクス・マネージメント・コーポ

欧州

ハママツ・ホトニクス・ドイチュラント・ゲー・エム・ペー・ハー
ハママツ・ホトニクス・フランス・エス・ア・エール・エル
ハママツ・ホトニクス・イタリア・エス・アール・エル
ハママツ・ホトニクス・ユー・ケイ・リミテッド
ハママツ・ホトニクス・ノルデン・エイ・ピー
ハママツ・ホトニクス・ヨーロッパ・ゲー・エム・ペー・ハー

中国

浜松光子学商貿（中国）有限公司
北京浜松光子技術股份有限公司

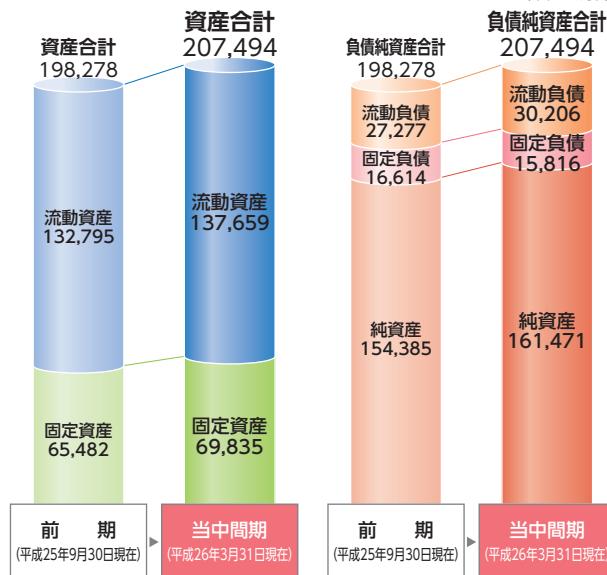
中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	期 別	当中間期 (平成26年3月31日現在)	前中間期 (平成25年3月31日現在)	前 期 (平成25年9月30日現在)
資 産 の 部				
流 動 資 産		137,659	134,874	132,795
固 定 資 産		69,835	64,393	65,482
有 形 固 定 資 産		58,200	52,165	53,541
無 形 固 定 資 産		1,745	1,851	1,697
投 資 そ の 他 の 資 産		9,889	10,376	10,243
資 産 合 計		207,494	199,268	198,278
負 債 の 部				
流 動 負 債		30,206	32,030	27,277
固 定 負 債		15,816	18,966	16,614
負 債 合 計		46,022	50,997	43,892
純 資 産 の 部				
株 主 資 本		159,155	149,917	153,862
その他の包括利益累計額		1,757	△ 1,871	11
少 数 株 主 持 分		558	224	512
純 資 産 合 計		161,471	148,270	154,385
負 債 純 資 産 合 計		207,494	199,268	198,278

財務の状況

(単位：百万円)



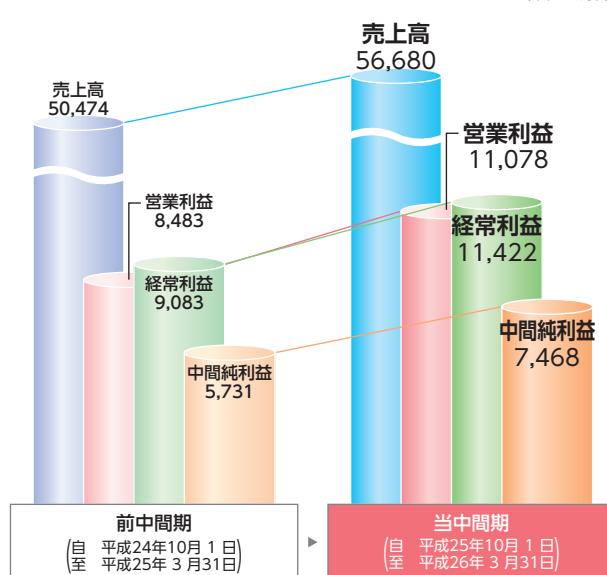
中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	期 別	当中間期 (自 平成25年10月1日 至 平成26年3月31日)	前中間期 (自 平成24年10月1日 至 平成25年3月31日)	前 期 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)
売 上 高		56,680	50,474	102,156
売 上 原 価		27,181	25,368	50,951
売 上 総 利 益		29,498	25,106	51,204
販売費及び一般管理費		18,420	16,622	34,422
営 業 利 益		11,078	8,483	16,781
営 業 外 収 益		443	692	1,300
営 業 外 費 用		99	92	198
経 常 利 益		11,422	9,083	17,883
特 別 利 益		2	105	121
特 別 損 失		14	62	100
税金等調整前中間(当期)純利益		11,410	9,127	17,904
法 人 税 等		3,923	3,384	6,368
少数株主損益調整前中間(当期)純利益		7,487	5,742	11,535
少 数 株 主 利 益		19	10	6
中 間 (当 期) 純 利 益		7,468	5,731	11,529

収益の状況

(単位：百万円)



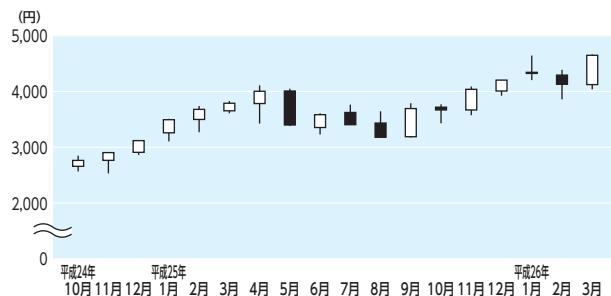
●会社の概況

設立 昭和28年9月29日
 資本金 34,928百万円
 従業員数 3,095名
 主要営業品目 光電子増倍管、イメージ機器、光源、光半導体素子、
 画像処理・計測装置

役員 (平成26年5月1日現在)

取締役会長	晝馬輝夫
代表取締役社長	晝馬明
代表取締役副社長	大塚治司
代表取締役専務取締役	山本晃永
代表取締役専務取締役	竹内純一
常務取締役	飯田等
常務取締役	鈴木賢次
常務取締役	武村光隆
常務取締役	原勉
常務取締役	吉田堅司
取締役	内山博文
取締役	小池隆司
取締役	嶋津忠彦
常勤監査役	村松文夫
常勤監査役	森和彦
監査役	浜川雅春
監査役	榎祐治

●株価の推移



●株式事項

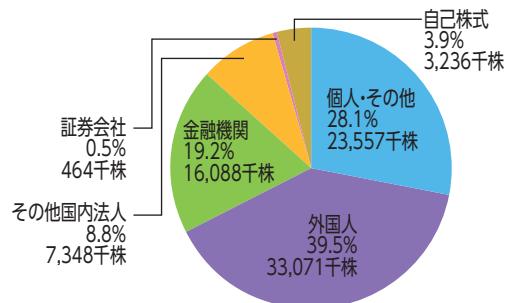
■発行済株式総数 83,764,984株

■株主数 24,838名

大株主	株式数
トヨタ自動車株式会社	4,200,000株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	3,869,600株
浜松ホトニクス従業員持株会	3,272,961株
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	3,174,647株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	2,545,700株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	1,624,100株
晝馬輝夫	1,575,942株
野村信託銀行株式会社 (投信口)	1,383,200株
ジーピーモルガンチェースバンク 385632	1,192,582株
ノーザントラストカンパニー (エイブイエフシー) アカウント ノン トリー ティー	1,121,842株

(注) 上記のほか、自己株式3,236,167株があります。

■所有者別株式分布状況



■第67期中間配当金 1株につき 25円

●株主メモ

◇株式に関する各種手続きのお申出先◇

1. 証券会社に口座をお持ちの株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求、配当金受取方法の指定等のお手続き

お取引されている証券会社等
にお申出ください。

2. 未払配当金の支払い及び証券会社に口座をお持ちでないため特別口座が開設されました株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求、配当金受取方法の指定等のお申出先

三井住友信託銀行株式会社

0120-782-031 (通話料無料)

(受付時間 土・日・祝祭日を除く9:00~17:00)

事業年度	10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	毎年12月
定時株主総会基準日	9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して一定の日を定めます。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 上記のお問い合わせ先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行事務センター 電話 0120-782-031 (通話料無料) なお、取次事務は三井住友信託銀行株式会社の全国本支店でっております。
単元株式数	100株
公告方法	電子公告の方法により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 公告掲載の当社ホームページアドレス http://www.hamamatsu.com/ja/ir/index.html

HAMAMATSU

PHOTON IS OUR BUSINESS

URL <http://www.hamamatsu.com>

UD
FONT

